



令和 6 年度(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

CSW 活動報告書



C こまったときの **S** そうだんは **W** わたしたちへ

社会福祉法人
所沢市社会福祉協議会



目 次

■はじめに	1
■コミュニティソーシャルワーカー(CSW)とは.....	2
写真で見る CSW の役割.....	4
■CSW 活動報告	
Ⅰ 相談集計.....	6
Ⅱ 地域支援活動	
(1) こども支援活動.....	8
(2) 災害に対する取り組み.....	10
(3) 地域福祉サポーター活動	11
(4) 人材発掘・確保.....	12
(5) 団体との連携・支援.....	13
Ⅲ 事例報告	
(事例 1)個別支援.....	14
(事例 2)地域支援	15
♪ CSW コラム	16
■終わりに/■ホームページ一覧.....	17

■はじめに

日頃より、本会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。このたび、令和6年度のCSW活動報告書を作成いたしましたので、ここにご挨拶を申し上げます。

本会では、平成28年から11行政区にCSWを配置しており、地域住民と協働して取り組む専門職として10年目を迎えました。関係機関や地域団体、市民の皆さまにCSWの活動への理解をより深めていただき、連携をさらに強化することで、地域に根ざした包括的な支援を充実させていくことが私たちの最も重要な使命だと考えております。

さて、令和6年元旦に発生した能登半島を震源とする地震では、大きな被害のあった石川県穴水町、輪島市へ令和6年度に2名の職員派遣を行い、災害ボランティアセンターの一員として現地での協力を行いました。こうした災害発生時の現地の様子を見ますと、地域の住民同士が支え合う必要性をより一層感じ、災害時の対応が適切に行えるよう、災害ボランティアセンター実地訓練等の充実や日頃からの地域での支え合いの推進に取り組んで参りました。

また、こども支援活動においては、「こどもの居場所ネットワーク所沢」を立ち上げました。市内のこどもの居場所活動団体の交流や情報発信、寄付者や協力者との円滑な受け入れ態勢の構築を目指し、地域福祉のさらなる発展に向けて動き出しています。

本報告書では、本会のCSWの活動の詳細や成果を記載しております。皆さまにおかれましては、本報告書をご覧ください、CSWの活動へのご理解を深めていただくとともに、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



所沢市社会福祉協議会
会長 本橋 栄三

令和7年度CSW



私たちが
CSW
です！

詳しくはこちら▼



■コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは

市内11行政区ごとに担当のCSWを配置し、地域に出向き複合的な生活課題を抱えた個人や家族に対して必要なサービスや専門機関へのつなぎ等、包括的な相談支援を行います。また、個々の困りごとを地域の課題として捉え、地域住民や民生委員、多様な関係機関等と連携を図り、こども食堂の立ち上げや多世代交流の場づくりを行いながら、誰もが暮らしやすい地域づくりに取り組みます。

CSW の主な役割

●地域に出向き困りごとの発見・把握

CSW が地域に出向き、ちょっとした困りごとやどこに相談したら良いかわからないといった相談に応じます。また地域で開催される会議や集まりに参加し、地域の課題やニーズの把握に努めています。

【困りごとの発見・把握の場の例】

- ・まちづくり協議会・地区社協との連携・協働
- ・地域ケア会議への参加
- ・住民懇談会等、福祉情報交換会の開催
- ・各地区の身近な相談窓口の設置 等



●関係機関や地域の居場所と連携・つなぐ支援

一人ひとりの困りごとやニーズに応じて、福祉の相談窓口や地域包括支援センター等の専門機関や地域の居場所につなぐ支援をします。

【CSW がつなぐ関係機関や地域の居場所の例】

- ・相談窓口に関すること（行政の専門窓口、地域包括支援センター等）
- ・こどもの居場所に関すること（こども食堂、学習支援、フードパントリー等）
- ・交流・居場所に関すること（サロン活動、茶話会、百歳体操、会食、農園等）
- ・助け合い活動に関すること（家事援助、庭木の手入れ、話し相手等） 等

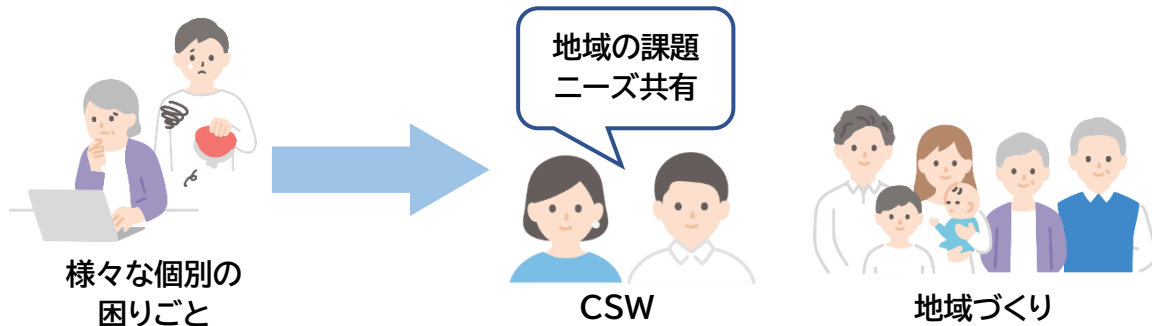


●個別の困りごとを地域で解決する仕組みづくり

個別の困りごとから見えてくる、地域の課題やニーズを共有し、解決に向けた話し合いや取り組みを進めていけるよう地域住民の皆さんと共に活動していきます。

【生活上の様々な困りごとの例】

- ・長い間自宅にひきこもっていて、一步を踏み出せない
- ・多くの課題を抱え、どこに相談していいのかわからない
- ・生活に困窮し精神的にも疲弊している
- ・介護(若い世代による介護負担含む)や育児によるストレス、虐待 等



CSW の実践体制

CSW はチームで活動しています。

●圏域会議／月2回(各圏域)

市内行政区を中央・西部・東部圏域ごとにユニットを組み、各地区での支援の進捗や地域の状況等を共有し連携体制を構築します。

●CSW 会議／週1回

CSW が担う様々な業務について、より良い支援の仕組みづくりに向けて共に協議し、事業を推進します。

●CSW 事例検討会／月1回

解決困難なケースを共有し、互いに対応方法の提案や、意見を交換する中で学識経験者から助言をもらいながら支援の方針を協議します。

●上記の他、「部門間連携促進研修」「多機関協働促進研修」「他社協との人事交流」を実施し、CSW の実践力の向上を図っています。



圏域会議



CSW 会議



CSW 事例検討会



地域に出向き困りごとの発見・把握

各地区での相談会の実施や地域の会議
に出席し、個別の相談に対応しています。

把握した個別の困りごとを地域の課題
として捉え、地域で解決できる仕組みづ
くりにつなげます。



地域に出向いた相談会



地域ケア会議



所沢市自治連合会との懇談

関係機関や地域の居場所と連携・ つなぐ支援

困りごとやニーズに応じて、専門機関
や地域で活動するボランティア団体等
につなぐ支援をしています。

またサロン等を行う団体の活動に参加
し、地域住民との顔の見える関係づくり
を心がけています。



サロン活動への参加



まちづくりセンターとの連携



夏のボランティア体験

個別の困りごとを地域で解決する 仕組みづくり

把握した地域課題やニーズを共有する場を作り、新たな担い手の発掘や、福祉に関する情報を広げます。

また解決に向けた話し合いや、取り組みを進めていけるよう地域住民の皆さんと共に活動します。



共同募金・歳末たすけあい募金の街頭募金活動



CSW の活動紹介と地域参加のきっかけづくりを目的として開催した地域福祉みらいフォーラム



地域福祉サポーター養成講座



地域の方と協働した小・中学校でのふくし学習



災害ボランティアセンター市民スタッフ養成講座



こども食堂等の運営支援

■CSW 活動報告

I 相談集計

令和6年度に、CSW が対応した相談件数、相談対象者、相談者種別及び相談内容等を集計したものです。

【相談支援世帯数】(単位:件)

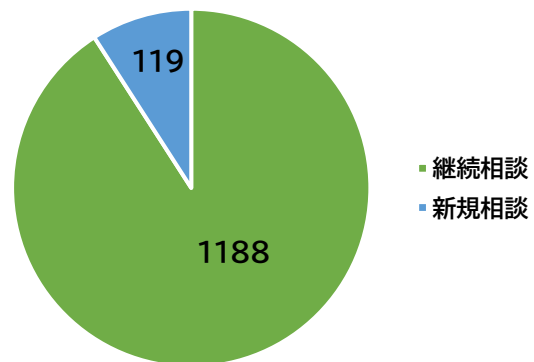
	令和 6 年度
継続支援	42
傾聴・見守り支援	124
合計	166

令和6年度は、数値の計上について見直しを行いました。令和5年度までは、匿名や住所等の本人の基本情報が確認できない方も1件の相談として計上していましたが、令和 6 年度より支援のプロセスを重要視し、基本情報が確認できた方を1件として計上しています。

一方で匿名等の相談が一定数あることには変わりなく、圏域会議等で情報の共有をしています。

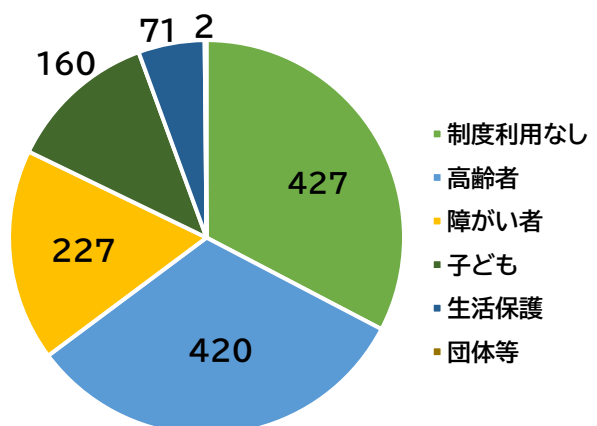
【相談対応件数】(単位:件)

	延べ件数
新規相談	119
継続相談	1,188
合計	1,307



【対象者種別】(単位:件)

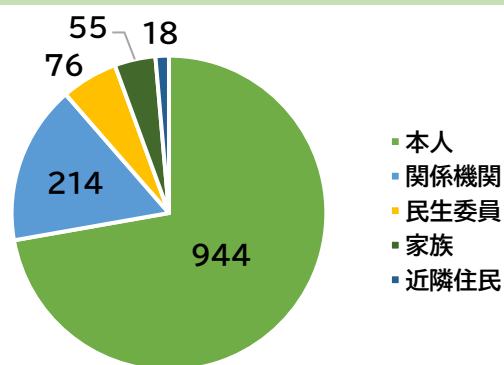
	延べ件数	構成比
制度利用なし	427	32.7%
高齢者	420	32.1%
障がい者	227	17.4%
子ども	160	12.2%
生活保護	71	5.4%
団体等	2	0.2%
合計	1,307	100.0%



※「制度利用なし」とは、どこの相談窓口等にもつながっていない対象者のこと。

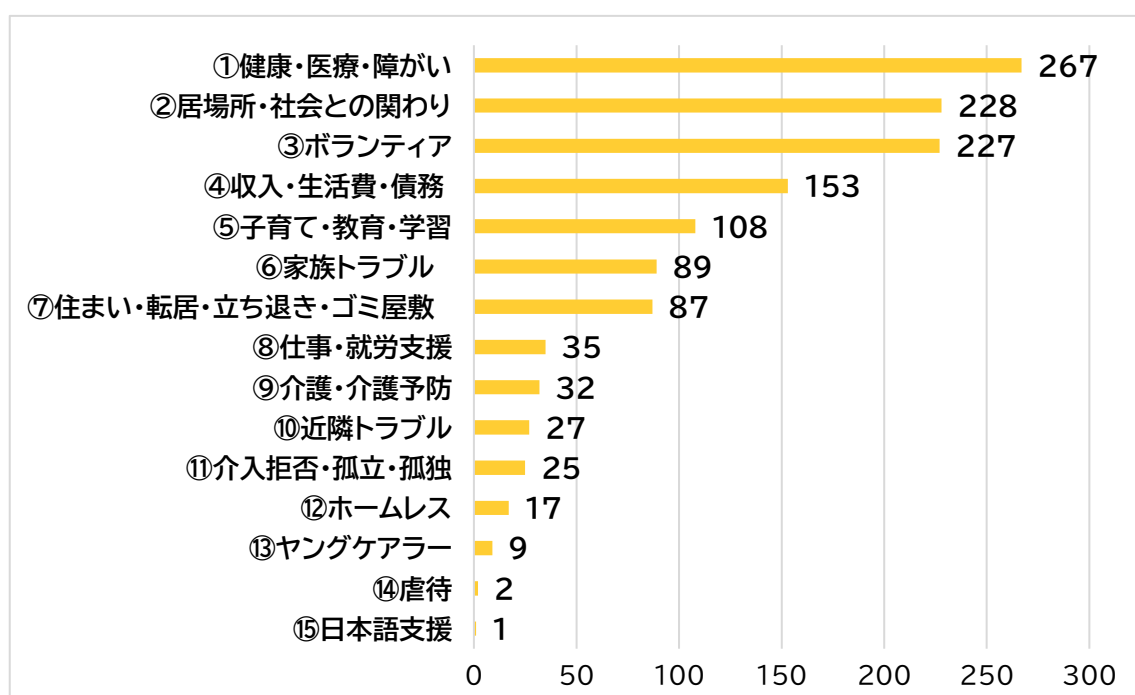
【相談者種別】(単位:件)

	延べ件数	構成比
本人	944	72.2%
関係機関	214	16.4%
民生委員	76	5.8%
家族	55	4.2%
近隣住人	18	1.4%
合計	1,307	100.0%



【相談内容】(単位:件)

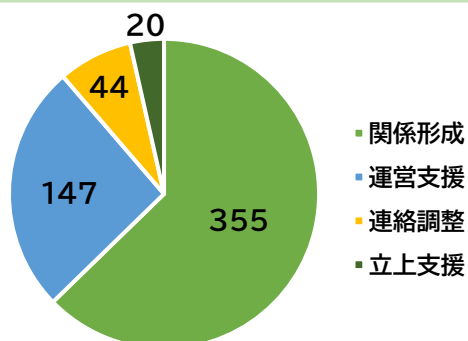
※合計(延べ件数)1,307 件



「②居場所・社会との関わり」「③ボランティア」に関する相談が多く推移しており、地域に意識を向けている人が一定数いることが伺えます。

【地域支援件数】(単位:件)

	令和6年度
関係形成支援	355
運営支援	147
連絡調整支援	44
立ち上げ支援	20
合計	566



「関係形成支援」が最多であり、CSWが各地区で地域の方や関係者と関わり、ニーズ・強み等を把握し、様々な取り組み等につなげられるよう活動しているためと考えられます。

Ⅱ 地域支援活動

(1) こども支援活動

こども支援活動として、CSW がこどもの居場所の立ち上げ支援から、活動に対する助成金の支援、活動を支援したい企業等とのつなぎ役となりました。また各関係機関と連携し、必要な世帯と団体をつなぐ支援も行いました。

市内のこどもの居場所実施団体の横のつながりづくりも行いました。

こどもの居場所ネットワーク所沢 web サイトの立ち上げ



詳しくはこちら▶



令和 7 年 2 月に「こどもの居場所ネットワーク所沢」を立ち上げ、誰もが所沢市内のこどもの居場所を調べることができるように「こどもの居場所マップ」を公開しました。令和 7 年 3 月末時点で 32 の活動を紹介しています。活動団体の周知だけでなく、不足している物資の寄付やボランティアの受け入れ態勢の構築を目指しています。

こどもの未来×リユース×ブックオフ「キモチと。」 ～キモチとどける。プロジェクト～

詳しくはこちら▶



所沢市役所



埼玉りそな銀行

令和 5 年 7 月より開始している、「キモチとどける。プロジェクト」は、回収 BOX の設置が広がっています。

令和 7 年1月には「所沢市役所」、令和 7 年3月には、「埼玉りそな銀行」市内4店舗での設置が開始となりました。令和 6 年度で回収 BOX は計 22 か所、実績は 280,578 円となり、これからも所沢のこども達の為に、引き続き回収 BOX の設置拡充・事業の周知を行っていきます。

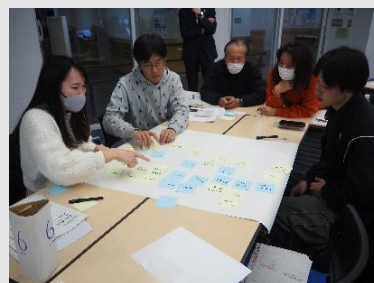
文房具の提供で新学期を応援



市民の皆さまにご協力いただいている「赤い羽根共同募金」の配分金を活用し、希望のあった市内のこどもの居場所 15 団体に文房具(ノート 500 冊、蛍光ペン 300 セット、シャープペンシル 400 本他)の提供を行いました。物品については、顔の見える関係性づくりや団体の運営支援を兼ねて CSW がこどもの居場所を運営している各団体へ出向き、こどもたちへ届けました。

こどもの居場所セミナー

「こども食堂ネットワークいるま」で会長を務める村野裕子氏を講師に招き、こども食堂等のこどもの居場所団体や団体の立ち上げを検討している方を対象に、「こどもの居場所のための地域ネットワーク」をテーマとした講演会を実施しました。17 団体 26 名、個人 6 名の計 32 名が参加し、各団体の強み等も共有し、地域ネットワークを作る事での相乗効果や重要性を考える機会となりました。



フードパントリー事業

つながりづくりを目的に、ひとり親家庭等を対象とした「笑顔でごはんフードパントリー事業」や「歳末子育て応援！フードパントリー事業」を実施しました。いずれも、地元農家や企業、福祉団体、学校等からの寄付品や、「所沢市こども未来基金」及び「共同募金の配分金」を活用し、本会にて購入した食料品等を提供しました。

延べ 112 回 2,904 世帯へ食料品等を届けるとともに、活動団体の運営支援を行いました。



(2)災害に対する取り組み

令和 6 年度は被災地への職員派遣のほか、災害ボランティアセンター運営・実地訓練を行いました。また市民スタッフをはじめとする地域住民の力を活かした復興活動ができるように努めました。

詳しくはこちら▶



被災地支援



令和6年能登半島地震で被害を受けた石川県穴水町、輪島市へ、埼玉県社会福祉協議会からの支援要請により、災害ボランティアセンターの運営支援に従事する職員を 2 名派遣し、専門家ボランティアとの調整、現地の状況確認、活動日の調整・マッチングを行いました。

災害ボランティアセンターの取り組み



令和 6 年 6 月に「市民スタッフ養成講座」と「実地訓練」を行いました。養成講座では、新たに 15 名が市民スタッフとなり、実地訓練には 58 名が参加しました。令和 6 年能登半島地震において実際に現地で支援にあたった講師のもと、被災時におけるニーズの聞き取り訓練等を行い、災害に備えました。

市民スタッフの会運営支援



令和 6 年 10 月に行われた所沢市民フェスティバルの福祉コーナーにて、災害ボランティアセンターの PR のため、市民スタッフの会が出展しました。こども部屋のミニチュアを用いた震災時の実演や防災クイズ、パネル展示等で啓発活動を行いました。初日から 270 名以上の参加者で防災を考えるよいきっかけを提示できました。

(3)地域福祉サポーター活動

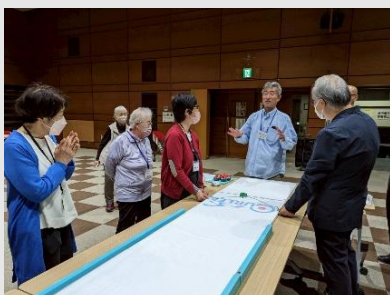
地域福祉サポーターは、身近な地域で起きている問題等に”気づき”CSWへのつなぎ役であると同時に、問題の解決に向けて一緒に取り組みながら、自ら助け合いの地域づくりに参画する地域の支援者であり、現在188名が登録しています。

各地区のサポーターとの連絡会を行うことで CSW と連携し、一丸となって誰もが暮らしやすい地域づくりを目指しています。



詳しくはこちら▶

地域福祉サポーターの活動



サポーターによるカーレット体験会



サポーターによる誰でもカフェ



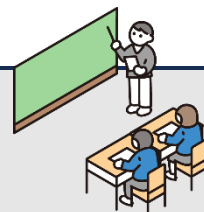
サポーター交流会

地域福祉サポーターが主体となり、それぞれが「できることをできる範囲で」サロン活動等の運営や、個人でのボランティア活動、地域の特徴を活かした活動を通して、交流を深めています。

また市内全体では、2回の勉強会、10回の連絡会を行い、CSW が地域福祉サポーターの活動を側面的に支援しました。

市内全域の地域福祉サポーターの交流を深めることを目的に、地域福祉サポーターと共に交流会を開催し、34名が参加しました。

フォローアップ講座



「こどもの居場所づくり」について学ぶ場として「地域福祉みらいフォーラム」への参加を呼びかけ、CSW が地域福祉サポーターと連携した事例について紹介をしました。当日は地域福祉サポーターを含めた地域の方が145名参加しました。

市民の立場で地域福祉を進めている地域福祉サポーターが、日ごろの活動を振り返り、役割の再確認やモチベーションの向上を図ることを目的としています。



(4)人材発掘・確保

地域福祉の推進を図るため、人材育成としてさまざまな養成講座の開催に取り組み、協力しました。また、学校等における「ふくし学習」のプログラムについて依頼を受け、こどもの頃から幅広く「福祉」に触れる機会を提案しています。

その他、個別でボランティアに関する相談を受け、情報提供や実際の活動への参加のつなぎ等も行いました。

詳しくはこちら▶



ふくし学習



令和6年度は市内小学校32校のうち23校、中学校15校のうち6校、短期大学、専門学校からの依頼があり、CSWが講師の派遣や備品貸出の調整を行いました。実際に地域で活動する方々との交流にもつながるよう、民生委員や地域福祉サポーターにもボランティアとしての参加を呼びかけ、生徒の学びが深まるような声掛けや見守り等をしてもらいました。

また、地域の団体等に向けても出前講座の一環として講座を開催しています。

スマホサポーターの養成



生活支援コーディネーターと協力し、市内で開催されるスマホ教室等をサポートするボランティアとして、スマホサポーターの養成を年3回行い、スマホサポーターは合計43名になりました。令和7年1月に市内のスマホ教室等に関わる関係者を集めた会議を開催したことで、市内で開催するスマホ教室等が増え、スマホサポーターの活躍の場が広がっていききました。

(5)団体との連携・支援

所沢市内の関係機関等へ CSW の周知の他、情報交換や連携も行いました。

また、ボランティア団体等に助成金や福祉に関する情報提供を行い、必要に応じて申請等の支援を行いました。

所沢市自治連合会との懇談会



令和 7 年 2 月に地域活動の実践者である各行政区自治連合会会長と懇談会を行いました。各地区の会長と CSW の他、市役所の職員等、計22名が参加しました。地区の強みや抱負についての実践報告を各地区の会長からいただきました。それぞれの地区で活かしたいことや CSW と連携して行えることについて意見交換を行い、CSW との連携強化を図りました。

応援します！地域活動助成事業の推進



「赤い羽根共同募金の配分金」を活用し、地域福祉活動を財政面から援助する助成事業において、多くの団体からの活用を促進するため、助成事業の要綱改正と交付の手引きの見直しを実施しました。

また要綱と手引きの説明会と、参加者同士の横のつながりづくりを目的とした交流会を同日に実施し、23 団体 29 名、個人 2 名の計 31 名が参加しました。

Ⅲ 事例報告

(事例1) 個別支援

不登校児童を地域で支え・見守るためのチームづくり

【相談経路】

「所沢市教育センターSSW※1」から「学習支援」や地域の居場所について知りたいと連絡が入りました。

Aさんは小学6年生で、4年生の頃から登校渋りがあり、5年生では不登校でした。6年生になり担任が毎週自宅訪問をするようになってから、行事には出席するようになりましたが、行き渋りはありました。昼夜逆転気味で、Aさんの意思による外出はほとんどない状況でした。

【CSWの対応】

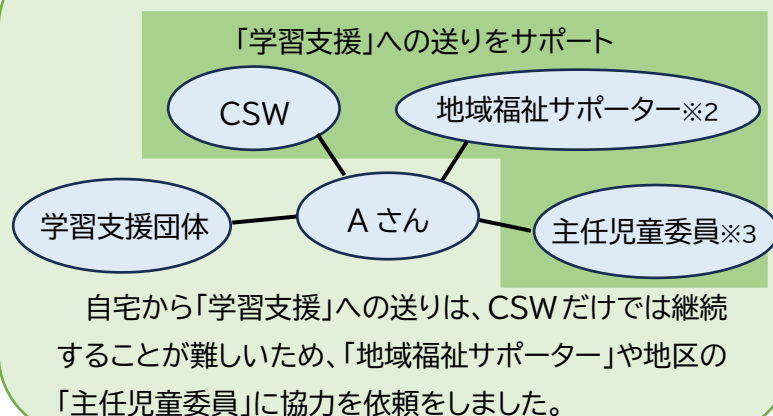
Aさん・家族へ「学習支援」や居場所の情報提供を行い、「学習支援」の団体に受入可能かどうか相談を行いました。自宅にSSWと訪問し、Aさん、母、SSWで「学習支援」を見学し、無理のない範囲で通うこととなったため、CSWは、Aさんが通えるように、日時を決めて自宅に伺うようにしました。

【支援内容】

①Aさんのスピード感に合わせる

外出する時間になっても、準備が整っていないことが多く、玄関先で何気ない会話をしながら待ちました。「学習支援」に行く途中の会話や歩くスピードもAさんに合わせながら出向きました。

②地域でのサポート体制の構築



前向きな気持ちが芽生えた

「学習支援」に通い始めたころは、フード付きの上着を羽織り、「学習支援」への道のりや学習中、夏の暑い時期もフードを外すことはありませんでした。時間の経過とともに、居場所やスタッフ等に慣れてくると、フードを外し、目線が合うようになりコミュニケーションもスムーズになってきました。また、小学校にも毎日通うようになり、友達もでき、帰宅後も友達と遊ぶようになりました。中学校に入学後には、何がしたいか考える等前向きに行動するようになりました。

【その後の展開】

中学校入学時には、Aさん自ら「学習支援」のスタッフに制服姿を見せに来てくれました。現在は部活動に励みながら、継続して「学習支援」を利用しています。一方、「学習支援」では、Aさんがいつ来ても良いような環境づくりをし、「主任児童委員」は学校行事等で、Aさんへの声掛けや見守り等を行ってくれています。

※1 SSW(スクールソーシャルワーカー):児童生徒本人や保護者への相談支援や学校内での児童生徒の問題について、情報交換、課題分析、具体的な支援や役割分担等の構築を行っている。

※2 地域福祉サポーター:本報告書 P.11 参照

※3 主任児童委員:地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように見守り、子育ての不安などの相談・支援等を行っている。

（事例 2）地域支援

ひとり親世帯を支える居場所の運営支援

【相談経路】

山口地区の民生委員だった B さんは、ひとり親家庭の小学4年生のこどもが、仕事で忙しい母が作った温かい食事を口にして、「お母さんのみそ汁おいしかった。また食べたい！」と話したことを聞き、「みんなで一緒にご飯を作って食べられる場ができれば」と模索しはじめました。地区内に「こども食堂」が無いことから、CSW と「こども食堂」の立ち上げに向けて話し合いを行いました。

【CSW の対応】

B さんや他の民生委員の協力のもと、活動開始に向けて支援を行いました。

①活動場所の見学

活動場所を決めるにあたり、アクセスの良さや場所代等を踏まえて、自治会館やコミュニティセンター等の施設を B さんで見学しました。

②助成金の情報提供や調整

本会の「こどもの居場所づくり助成事業」の提案や埼玉県社会福祉協議会の助成金事業への推薦を行い、立ち上げや運営における活動資金の確保に協力しました。

③スタッフ・参加者の募集

民生委員が主なスタッフでしたが、活動が広がるのに合わせて、「地域福祉サポーター」や本会へのボランティア相談者をつなぎました。また、参加者募集のために団体のチラシ等を活用し、保健センターやこども家庭センター等の公的機関への周知に協力しました。



こども食堂が誕生

新たなひとり親世帯の支援団体として、「こども食堂」が誕生しました。こどもの居場所やひとり親世帯が困った時につながる場所が少なかった地域に、地域で支える仕組みをつくることができました。



【その後の展開】

この団体は、「こども食堂」だけでなく「学習支援」等も展開し、ボランティアにとっても生きがいの場所となっています。CSW として、「さらに多様な背景を持った様々な方を受け入れることも視野に活動の幅を広げたい」という団体の想いを大切にしながら、地域住民のかけがえのない居場所として、側面的な支援を行っていきます。

♪CSW コラム

～CSW(コミュニティソーシャルワーカー)のとある一日～



CSW ミーティング

CSW 間で情報共有や事例検討を行っています！



相談者宅へ外出

相談支援や、見守り、安否確認の他、必要な支援を提供するために訪問等を行います。



小学校でのふくし学習

市内小中学校等で地域共生社会の実現に向けたプログラムを展開しています！



関係機関との連携

まちづくりの推進のため、会議等で情報共有を行っています。



こどもの居場所への参加

本会にて、「こども未来基金」を活用し、こども食堂や学習支援等こどもの支援を行う団体の方に向けて助成を行っています。立ち上げの相談等も受けており、活動にも参加させていただいています！



■終わりに

本報告書の作成にあたり地域福祉活動計画「ところ WITH プラン」の策定にご尽力いただき、現在では CSW 事例検討会へ学識経験者としてご協力いただいている、田中英樹氏よりコメントをいただきました。



地域福祉コーディネーター
田中 英樹 氏

【略歴】

1972 年、川崎市入職、佐賀大学、長崎ウエスレヤン大学、早稲田大学、東京通信大学を経て 2023 年 4 月から日本医療大学通信教育部(部長・教授)

ここに令和 6 年度版のコミュニティソーシャルワーカーを中心とした(以下、CSW)活動報告書が上梓されました。研究者として関わってきた立場から本報告書を拝見して、地域を基盤とした総合的な福祉専門職である CSW の配置が地域福祉活動計画「ところ WITH プラン」に位置付けられてからの 10 年の成果を手取るように確認することができました。CSW は元々 1980 年代のイギリスが源流ですが、わが国でも多くの市町村社会福祉協議会がその配置を広げてきました。

所沢市社協の活動では、昨年の相談件数が 1,307 件、地域支援が 566 件と報告されています。高齢や障害のある人、子ども、生活困窮者など多様な市民の個別相談や、地域での居場所や社会とのかかわり支援、市民グループや活動の支援、災害支援などを地域福祉サポーター養成や福祉学習など新しい市民力の形成と結び付けて活動してきた足跡が記録されています。

今後も、地域でのニーズ把握やアウトリーチを丁寧に行い、個別事例の支援に他の専門職と共に取り組みながら、地域を問題発生から問題解決へと耕していく活動を期待しています。

■ホームページ等一覧

★広報誌(ちゃお!・VC だより・SC 通信等)



★車いすステーション



★情報配信サービス(YouTube・LINE・メール)



社会福祉法人 所沢市社会福祉協議会

住 所:所沢市泉町 1861-1

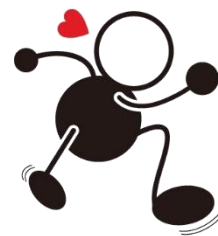
所沢市こどもと福祉の未来館 3 階

電 話:04-2925-0041

FAX:04-2925-3419

メール:0041m@toko-shakyo.or.jp

ホームページ:<http://www.toko-shakyo.or.jp/>



*CSW 報告書は共同募金の配分金を活用しています。

